

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。NITS 大賞に応募する場合、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

[様式 2]

No. D-68

研修成果の活用レポート ※「NITS 大賞」にエントリーされる場合は <award@ml.nits.go.jp> 宛てメールにて、ご応募ください。

所属名・氏名・修了した研修名 長崎県教育センター 岡田健治 平成30年度第2回副校長・教頭等研修	応募部門名 校内研修プログラム開発・実践部門
---	----------------------------------

活動名：自立活動の指導力向上
－ 研修体系の構築と学校との連動－

解決すべき課題：

- 長崎県特別支援教育推進基本計画第4次実施計画（平成30年12月）において、一人一人の実態に基づいた個別の指導計画による指導の充実を図るために、特別支援学校教員の専門的な知識及び技能の向上が課題であることが示された。
- 学校組織として自立活動の指導力向上を図るために、自立活動を推進するリーダーの役割が重要である。しかし、推進リーダー自身が、自立活動の指導を行う上で教員が「身に付けるべき力」は何か、「いつまでに」、「どの程度」身に付ける必要があるか等について把握できていない現状にある。
- (2) について、教育センターと特別支援学校の役割が明確でない。

目標・方針：

- 教員自身が自立活動の指導を行う上で教員が「身に付けるべき力」を明らかにする。
- 自立活動の指導の研修体系を構築し、各研修講座において、「身に付けるべき力」をどのように育成していくかについて明らかにする。
- (1)、(2) を踏まえた研修講座及び調査研究を実施・検証し、教育センターと特別支援学校が連動した指導力向上の在り方を明らかにする。

活動内容：

- 自立活動の指導の研修体系の構築 (図1)
 ・各経年研修のねらいを踏まえ、自立活動を体系的に学ぶことができる研修プログラムを構築した。
- 「自立活動の力量形成に向けたチェックシート（以下、チェックリストと記す）」の作成 (図2)
 ・自立活動の個別の指導計画作成の手続きに沿って、「身に付けてほしい力」をどの程度身に付けているかを教員自身が自己評価し、今後の自己の目標設定や、校内で必要な研修を適切に行うことができるよう作成した。
- 自立活動の指導リーダー研修講座の実施
 ・チェックシートを使用して自校の自立活動の力量形成の現状（強み・課題）を分析し、全教職員に身に付けてほしい力を焦点化したうえで、その力量形成のための具体的な計画である「アクションプラン」(図3) を作成した。受講者は、「アクションプラン」をもとに、自校の教職員の力量形成に向けた取組を進めた。
- 調査研究「自立活動の指導に係る教員の力量形成チェックシートの活用と検証」の実施
 ・各調査研究協力校は、チェックシートを実施した結果をもとに、校内研修等の企画・運営を推進した。その際、教育センターは、各調査研究協力校の現状を踏まえながら、企画への助言や共同での校内研修（写真1）(図4) を実施した。

活動の成果：

- 自立活動の指導リーダー研修講座<令和元年5月実施>の評価
 - 講座内容の満足度：95.5%
 - 取組意欲の向上：92.9% (N=28)
- 調査研究協力校の意見・感想等（チェックリストの有効性について）
 - 若手教員の力量形成の指標として有効
 - 校内研修企画・評価・改善の指標として有効
 - 自立活動の共通言語として有効

アピールポイント（アイデアや工夫）：

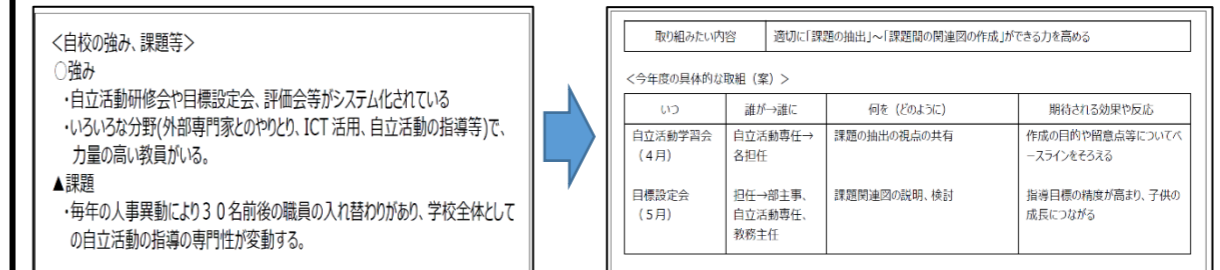
- チェックリストについては、福岡教育大学一木薫教授と共同作成。調査研究の取組の成果等については、同大学の研究やカリキュラム編成にも参考資料として活用される予定である。
- 長崎県の施策や、特別支援学校が抱える現状を踏まえ、「チーム長崎」として、教育センターと特別支援学校が一体となって進めるための取組である。

自立活動の指導において身に付けてほしい力	力量形成の段階（レベル）	教育センターで内容を扱う講座	実施年度	他者の助言を受けながら			力量形成の方法・場面？
				助言をもとに理解できる	必要な質問を行い、得られた助言をもとに、理解を深めることができる	助言を受けながら、自身の実践をもとに他の教師に説明できる	
実態把握	6区分に照らした現在の実態の把握	初任、2年、5年、自立	R1年				① 同僚（先輩教師）からの助言 ② 個別の指導計画の作成 ③ 授業実践（指導案作成） ④ 校内研究 ⑤ 校内研修会 ⑥ 教育センター ⑦ 自己研修 ⑧ 校務分掌 ⑨ 若手教員への指導・助言 ⑩ 研究発表、論文作成等 ⑪ 保護者面談、教育相談 ⑫ その他（外部専門家からの助言等）
	自立活動における学習の履歴の把握	初任、2年、5年、自立	R1年				
	過去や現在の家庭・地域生活の把握	初任、2年、5年、自立	R1年				
指導目標の設定	発達段階を踏まえた課題の抽出	初任、2年、5年、自立	R1年				
	学習の履歴を踏まえた課題の抽出	初任、2年、5年、自立	R1年				
	3年後の姿を描いた上での課題の抽出	初任、2年、5年、自立	R1年				

(図1)

自立活動の指導において身に付けてほしい力	ステージ（求められる姿）	第1ステージ					第2ステージ	第3ステージ	出前講座 研究援助
		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6～11年目	12～16年目	
実態把握	6区分に照らした現在の実態の把握	○	○			○	※	※	◇
	自立活動における学習の履歴の把握	○	○			○	※	※	◇
	過去や現在の家庭・地域生活の把握	○	○			○	※	※	◇
指導目標の設定	課題の抽出	○	○			○	※	※	◇
	学習の履歴を踏まえた課題の抽出	○	○			○	※	※	◇
	3年後の姿を描いた上での課題の抽出	○	○			○	※	※	◇
中心課題の設定	課題間の関連性の整理	○	○			○	※	※	◇
	課題関連図の作成を通じた中心課題の設定	○	○			○	※	※	◇
	指導係図の立案	○	○			○	※	※	◇
指導目標の設定	適切で具体的な（評価可能な）指導目標の設定	○	○			○	※	※	◇

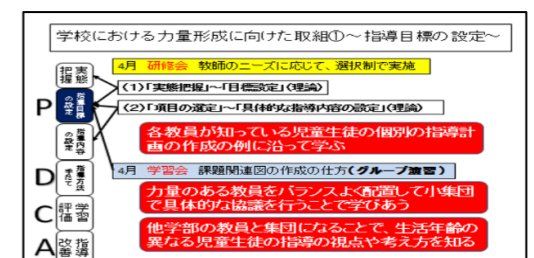
(図2)



(図3)



(写真1)



(図4)